

平成29年度 東京歯科大学 大学院説明会



口腔病態外科学講座

口腔病態外科学講座の大学院に求められるもの



研究

Dept. of Oral Pathobiological Science and Surgery

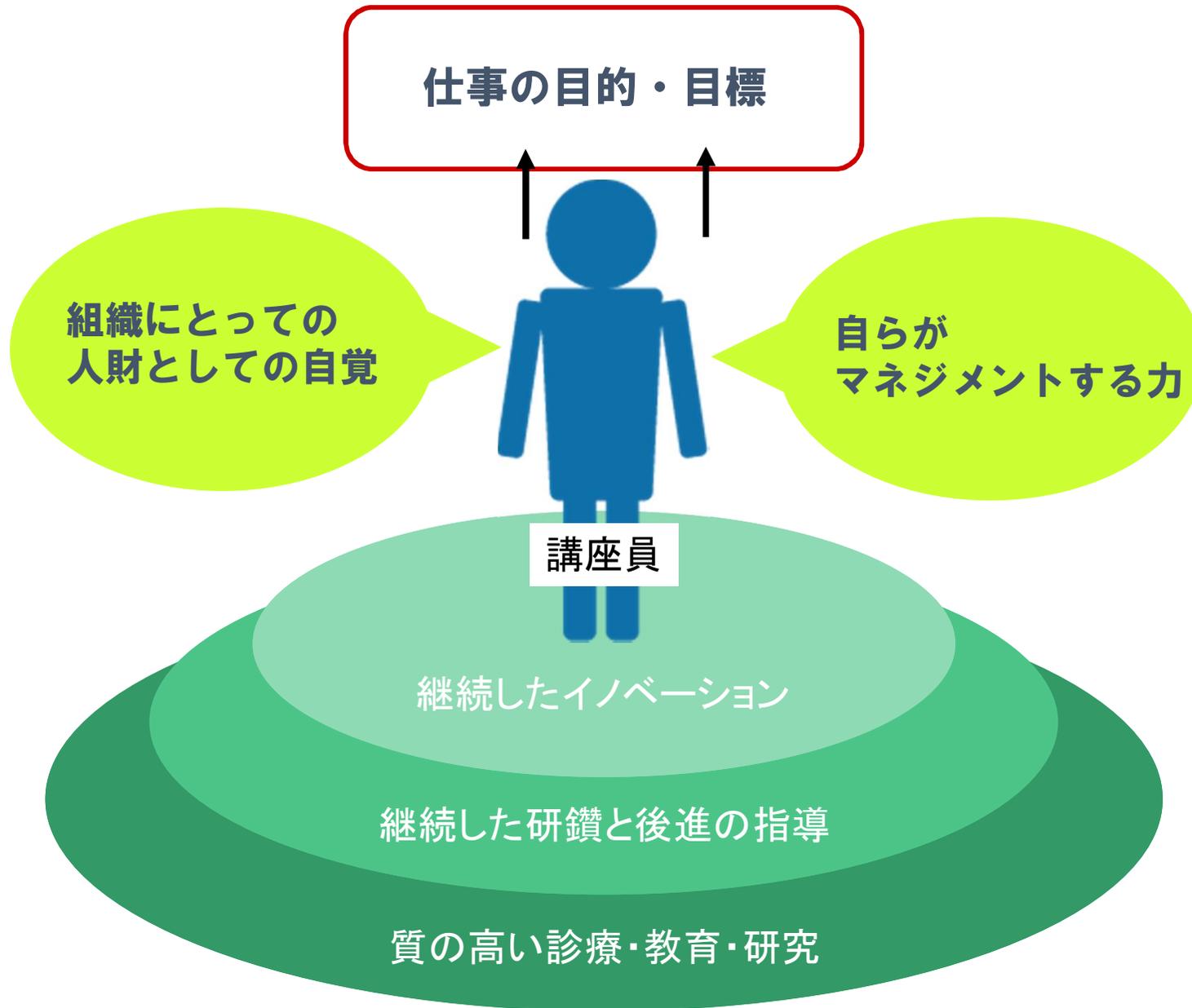
大学院

教育

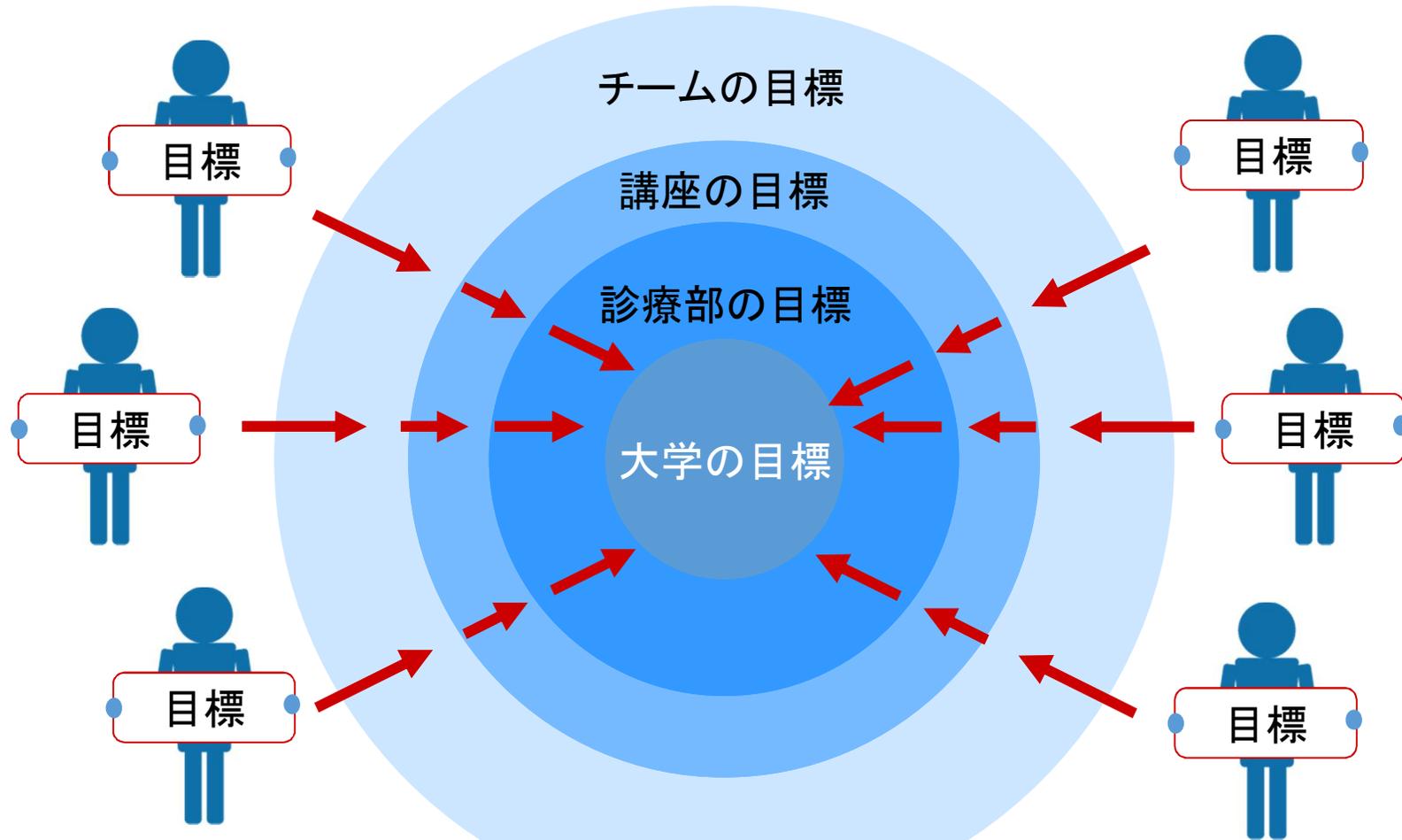
臨床



講座の生産性向上 講座員育成の土壌と講座員のスキルの向上



大学・講座・チームの目的と目標を明瞭に



各パートのリーダーが同じビジョンを持ち、
教授のもとでチームとして最大の成果をアウトプットする

講座員めいめいの目標が組織やチームの目標に収斂するように

研究テーマ

1. **口腔癌の早期診断と予防に関する基礎的、臨床的研究**
2. **唾液を用いた口腔病態の診断に関する基礎的、臨床的研究**
3. **口腔顎顔面痛に関する基礎的、臨床的研究**
4. **加齢と口腔機能の関連を明らかにする基礎的研究**

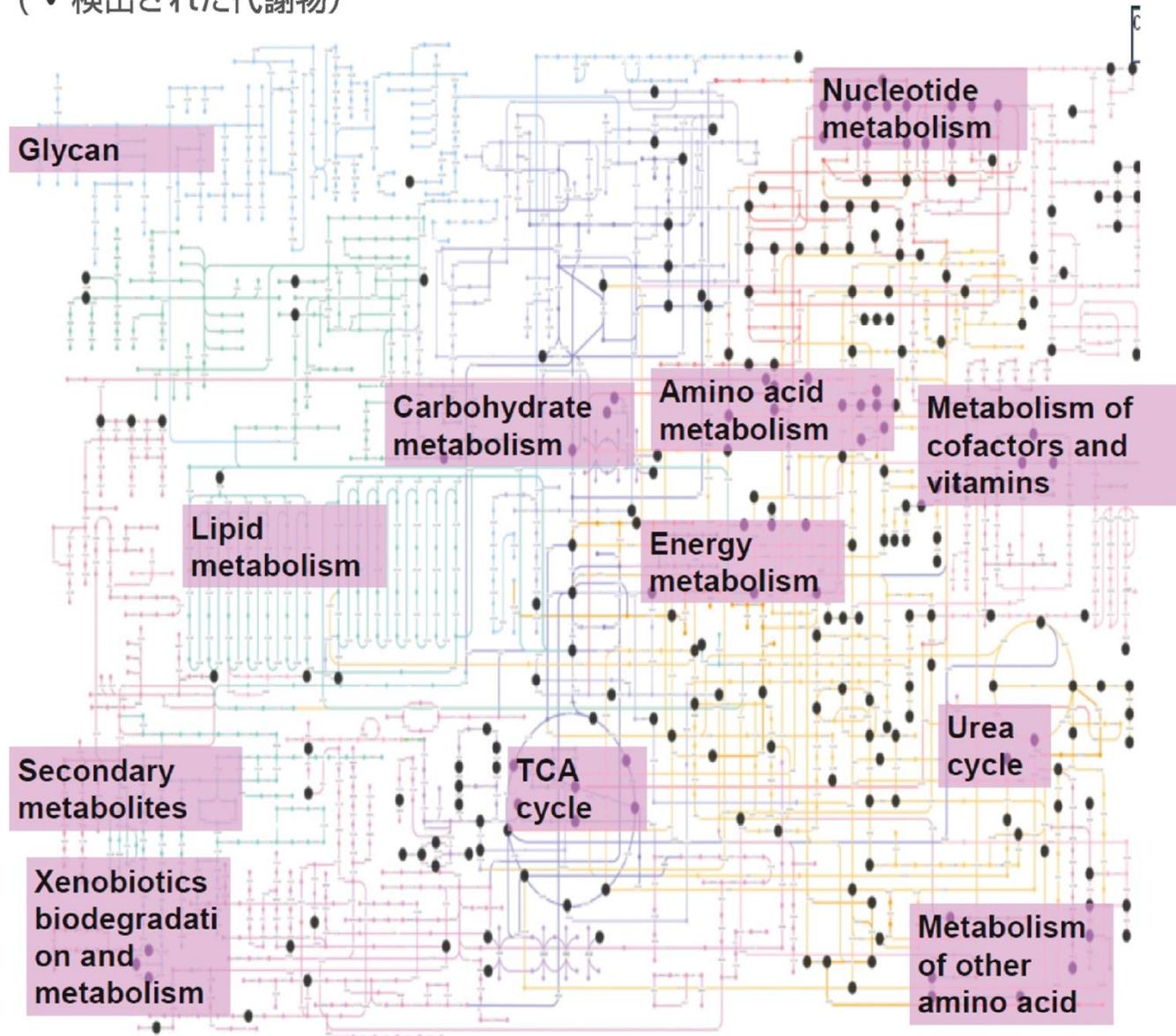
メタボローム解析から唾液中の腫瘍マーカーを探索

口腔癌細胞の代謝産物(メタボロミクス)を
CE-MS(キャピラリー電気泳動-質量分析計)により
網羅的に唾液中の低分子マーカーを探索



口腔癌患者の唾液代謝マップ（舌癌患者）

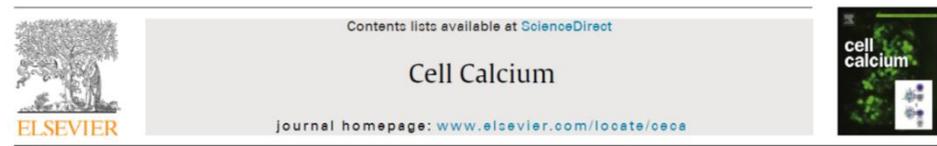
（・検出された代謝物）





口腔感覚はどのような 神経伝達物質によって制御されているか

神経伝達物質である
グルタミン酸が口腔感覚の
制御に関与している。



Intercellular signal communication among odontoblasts and trigeminal ganglion neurons via glutamate

A. Nishiyama^{a,1}, M. Sato^{b,1}, M. Kimura^{b,1}, A. Katakura^a, M. Tazaki^b, Y. Shibukawa^{b,*,1}

^a Department of Oral Pathobiological Science and Surgery, Tokyo Dental College, Tokyo 101-0061, Japan

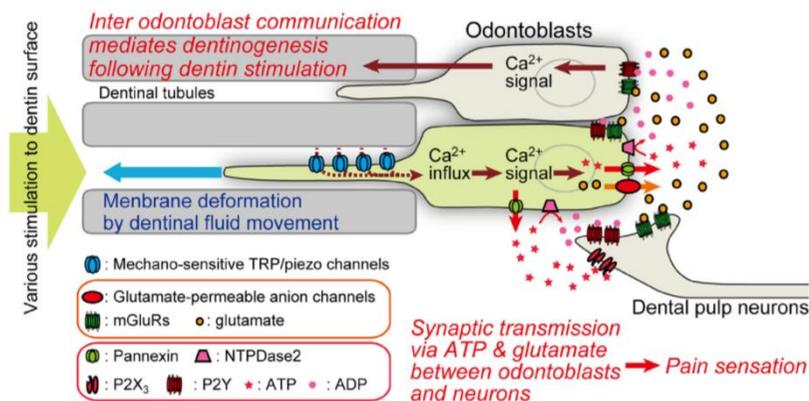
^b Department of Physiology, Tokyo Dental College, Tokyo 101-0061, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 28 October 2015
Received in revised form 8 July 2016
Accepted 12 July 2016
Available online xxx

ABSTRACT

Various stimuli to the exposed surface of dentin induce changes in the hydrodynamic force inside the dentinal tubules resulting in dentinal pain. Recent evidences indicate that mechano-sensor channels, such as the transient receptor potential channels, in odontoblasts receive these hydrodynamic forces and trigger the release of ATP to the pulpal neurons, to generate dentinal pain. A recent study, however, has shown that odontoblasts also express glutamate receptors (GluRs). This implies that cells in the dental



口腔顎顔面における
疼痛制御における基礎的研究



口腔顎顔面痛に関する受容体を
標的にした創薬の研究へ



咀嚼筋でもサルコペニアは起きているか

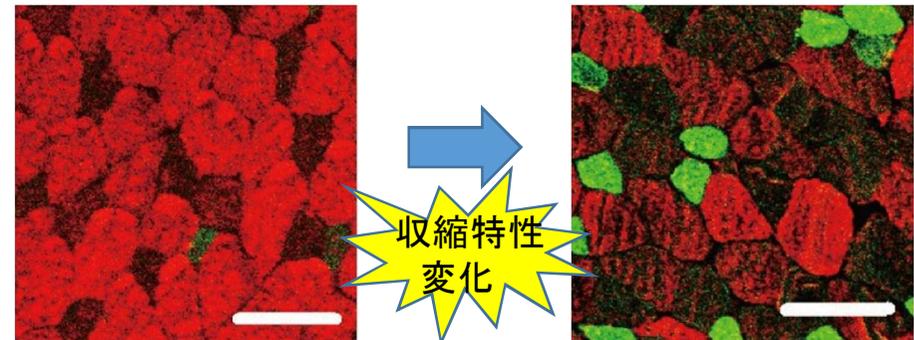
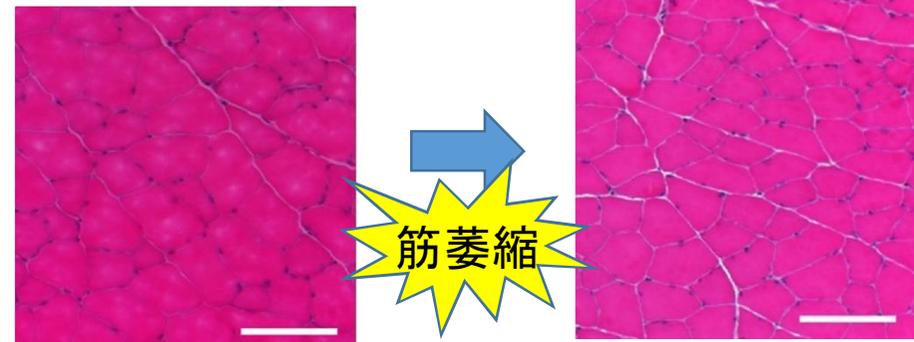
- 老化促進モデルマウスを用いた検討 -



サルコペニアと咀嚼機能が
関連している



老化促進群の咬筋は
加齢により筋萎縮を認めた
また、萎縮後に収縮特性に
変化を認めた



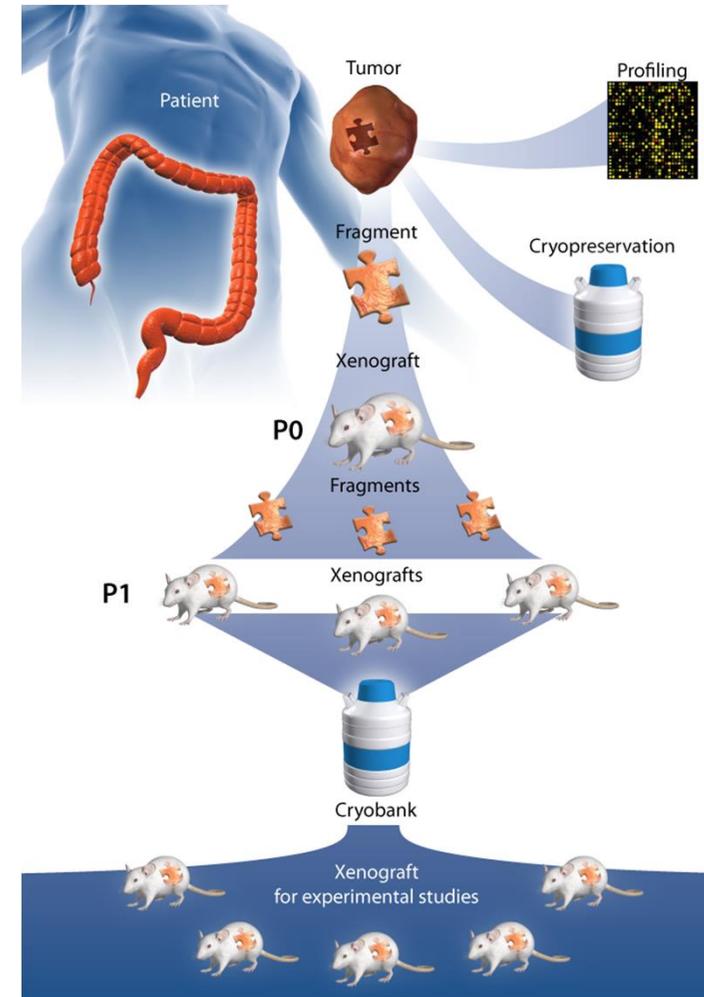
【若年期】

【老齢後期】



Patient-derived xenograft (PDX) モデルを開発して 口腔癌の間葉系組織からの悪性化を検証

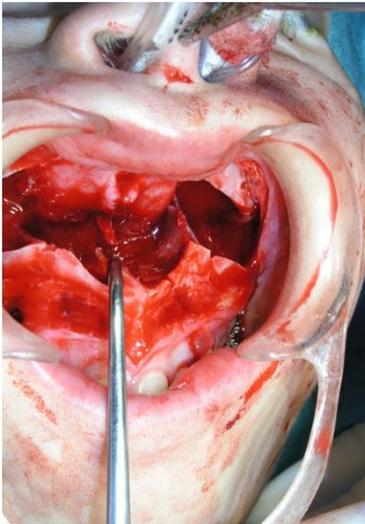
- “ 患者由来手術検体を免疫不全マウスに移植し発育、継代した研究モデル
- “ PDXモデルはヒト癌組織の特徴を忠実に再現するため近年、多くの研究で応用され始めている。
- “ 舌癌手術検体でPDXモデルを確立することで癌組織の病態理解や前臨床応用が可能になると考えられる。
- “ CAFs (癌組織内の線維芽細胞) とがん悪性化の研究へ





プロジェクションマッピングの 口腔外科手術(顎変形症手術)への応用

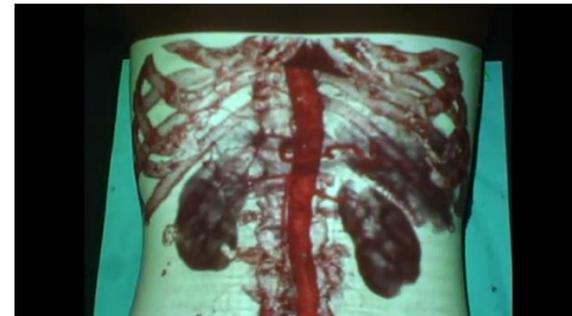
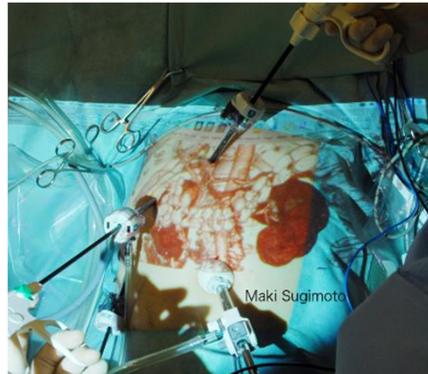
顎矯正手術患者の術前3次元的手術



プロジェクションマッピング使用
術中に正面と側面から顔面に投影



新たな手術法の確立



当講座大学院生の論文・学会の発表実績（2015年度）

2015年度修了者	筆頭発表数 11 編（うち英文4編） 原著論文6編 症例報告1編（うち英文6編）
2016年度修了予定	筆頭発表数 10 編（うち英文2編） 原著論文2編（うち英文1編）



星野大学院生 優秀ポスター賞受賞

（第71回日本口腔科学会学術集会、愛媛、2016年）

Dear Mr. Akira Katakura,

Your work entitled "Cytokeratin 13, Cytokeratin 17, Ki-67 and p53 Expression in Upper Layers of Epithelial Dysplasia Surrounding Tongue Squamous Cell Carcinoma" caught our attention during a search at Tokyo Dental College.

I am Boico Tatiana from the editorial team of Omniscriptum Publishing Group. We publish academic books and would be honored to evaluate your works in this field.

Your research could be of interest to a wider audience and we would like to consider publishing it as a printed book and marketing it worldwide.

Mr. Akira Katakura, would you agree to receive more information?

I am looking forward to hearing from you.

Sincere regards,

Boico Tatiana

Acquisition Editor

e: b.tatiana@lap-publishing.com

w: www.lap-publishing.com



Get your books here:

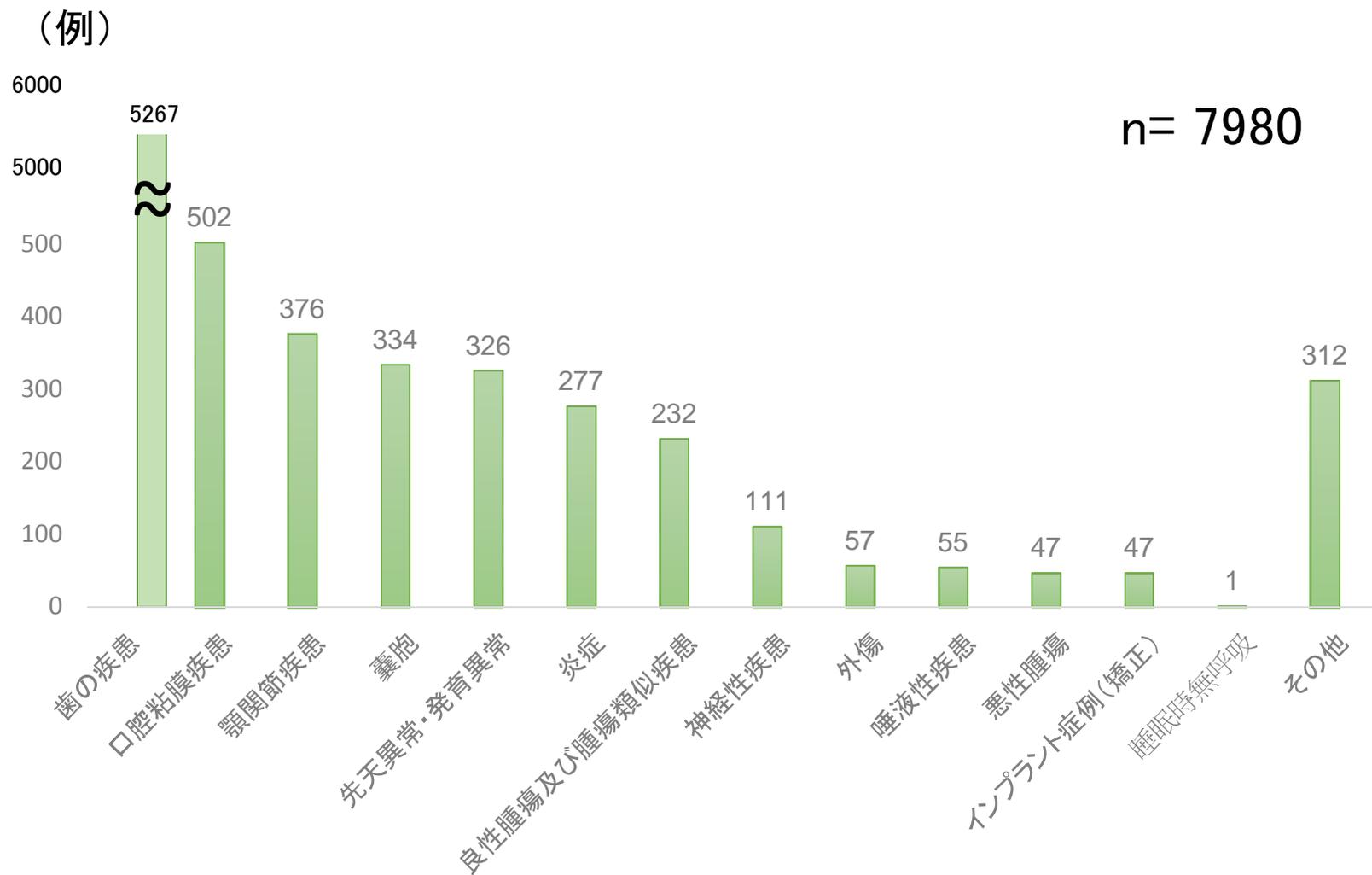
www.morebooks.de

当講座における大学院生臨床プログラム（口腔外科共通）

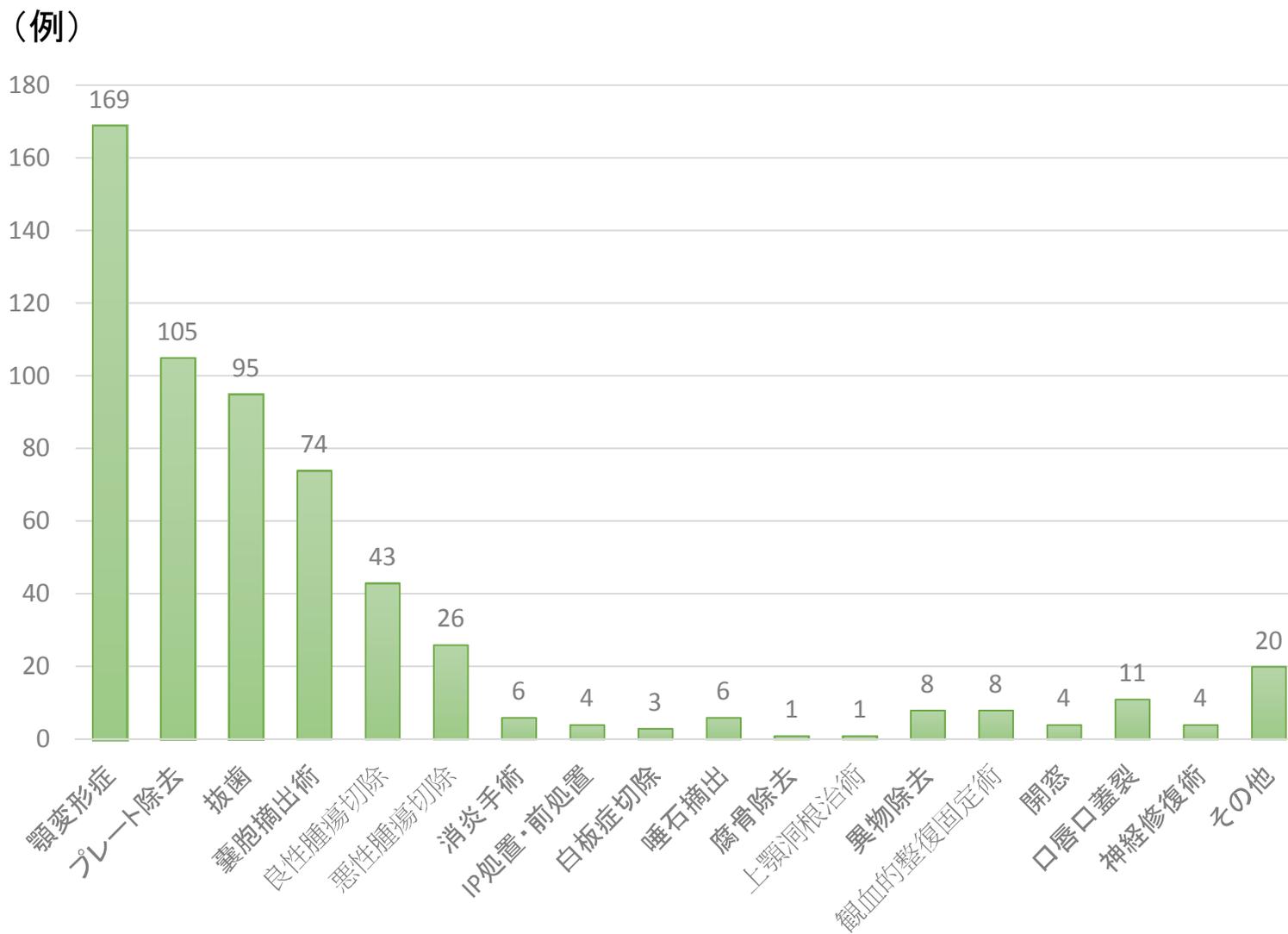
入局後	大学院生
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月までの4か月間は講師以上の指導医に1カ月毎ローテーションで研修を行う。見学と介助を行い、医療面接、カルテ記載、各検査オーダー、処方箋記載などを習得する。また、指導医が人格、技量を見据えた上で一診療中の実施可能な部分を担当することがある。 ・他科(歯科麻酔科)の研修を行う。 ・初期研修を修了した8月から指導医(8年目以上の執刀医で幹部会の承認を得た者)の指導下に配当を開始する。 ・隔週で抄読会を行い、知識の研修を行う。
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・助教以上の指導医とともに外来にて患者の診療を行う。 ・病棟での研修を3～6か月行う。手術室にて一診療中の実施可能な部分を担当する。また、入院患者の管理について研修する。 ・隔週で抄読会を行い、知識の研修を行う。 ・1年間に1回を目安に学会発表を行う。

3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・助教以上の指導医とともに外来にて患者の診療を行う。 ・病棟での研修を3～6か月行う。手術室にて一診療中の実施可能な部分を担当する。また、入院患者の管理について研修する。 ・隔週で抄読会を行い、知識の研修を行う。 ・臨床技能、知識が十分であると判断されたものは、<u>(公)日本口腔外科学会認定医試験資格を取得</u>。 ・1年間に1回を目安に学会発表を行う。
4年目	<ul style="list-style-type: none"> ・助教以上の指導医とともに外来にて患者の診療を行う。 ・病棟での研修を3～6か月行う。手術室にて一診療中の実施可能な部分を担当する。また、入院患者の管理について研修する。 ・隔週で抄読会を行い、知識の研修を行う。 ・臨床技能、知識が十分であると判断されたものは、<u>(公)日本口腔外科学会認定医試験を受ける</u>。 ・学位のための論文審査を受ける。

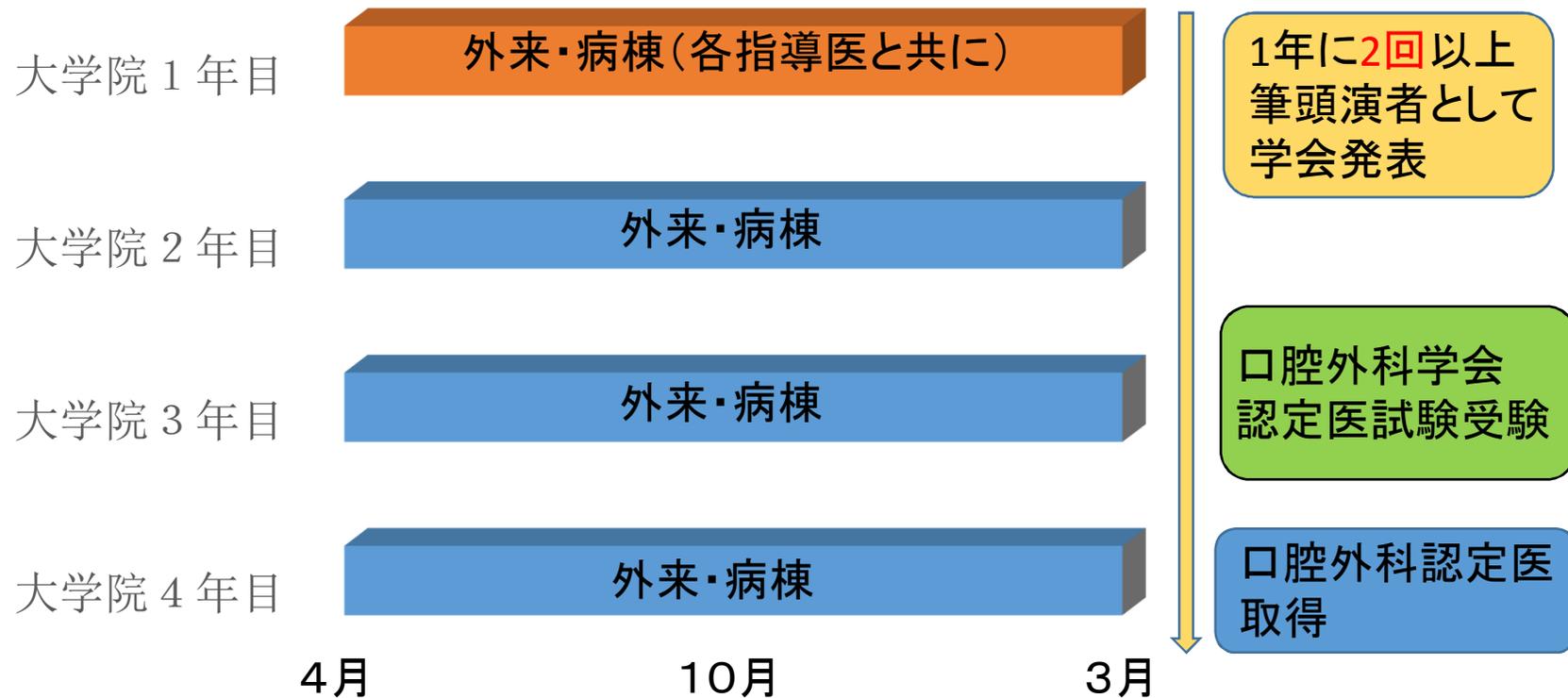
平成27年度 東京歯科大学水道橋病院口腔外科 疾患別統計



平成27年度 東京歯科大学水道橋病院口腔外科 手術症例



当講座における大学院生臨床プログラム



当講座では大学院3年で口腔外科認定医を取得
合格率は現在までで**100%** (全体の合格率89.6%)

大学院生の一日

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8:00～ 9:00	大学院 ミーティング	麻酔科合同 カンファ	外科 勤務日	ジャーナル クラブ	病棟勉強会
9:00～12:30	外来	外来		外来	外来
12:30～13:30	昼休み			昼休み	
13:30～17:00	外来 病棟	外来 病棟		外来 病棟	外来 病棟
17:00～19:00	研究	研究		症例検討会 医局会	研究
19:00～21:00	研究	研究		研究	研究
21:00～					

※木曜 8:45～ 教授回診 毎日 19:00～ 当直医回診

BBQ



